

OKoTaC 通信

オコタック

2014年4月10日発行

NO.16



P 2 NPO活動報告(1)

学習会『外国にルーツをもつ子どもの支援のあり方
～多角的な子ども理解と多様性への対応～』

P 3 NPO活動報告(2)

ピアにほんご『高校生活オリエンテーション』
多文化な子ども@大阪のニュース
『親子で楽しむ!国際交流ひろば』(クレオ大阪南)

P 4 地域の子ども支援教室から⑩

『ワールド教室』(大阪府茨木市)

P 5 特別寄稿

『母からの手紙を両手で ~どの子ども大事に、学校はそんな場所~』

P 6 Air Mail メキシコ便り⑭

『イグアスの滝』

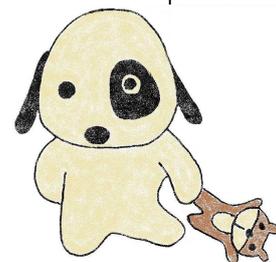
P 7 ころちゃんお役立ち情報(6)

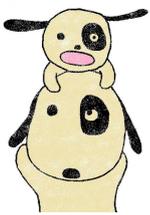
『多言語翻訳教材、その他資料』

オコタックから

ご寄附ありがとうございました/『阪急阪神 未来のゆめ・まち基金』助成金

P 8 イベント情報・総会のご案内





おおさかこども多文化センター 活動報告(1)|

学習会『外国にルーツをもつ子どもの支援のあり方 ～多角的な子ども理解と多様性への対応～』



2月23日(日)、大阪市立総合生涯学習センターで、学習会「外国にルーツをもつ子どもの支援のあり方」を開催しました。講師は、浜松市で長年、小学校教師として外国人児童の教育に携わってこられ、今は大学院で外国人の子どもの発達について研究されている、近田由紀子先生です。様々な課題を抱えた子どもたちのみならず、その保護者に対しても温かい視点でサポートしてこられた近田先生の、豊富な事例を織り込んだお話に、52名の参加者は熱心に聞き入っていました。

後半は小グループに分かれ、それぞれが現場で関わっている子どものケースや支援のアイデアについて、活発な情報交換も行われました。参加者のお一人で大阪市教育委員会指導部・教育相談員の藤野隆美さんが感想を寄せてくださいました——

.....

外国にルーツのある子どもで、指導者がどんなに工夫して指導を重ねても伸びない子どもはたくさんいます。どうして伸びないのか、どこに原因があるのか、どう指導すればいいのか…学校現場では、外国人児童を担当している多くの先生方がそういう悩みをもっています。今日の講義はそれらの悩みにしっかり応えてくれるものでした。

外国から来た子どもたちは、学校に入ると、言葉、文化、学習スタイル、人間関係のもち方等…たくさんの違いに直面します。そこを乗り越えられないと、自尊心を失い、学ぼうとする意欲を失います。指導者はその原因を、単に子どもの努力が足りないだけと捉えがちですが、子どもの可能性は無限です。近田先生は「凹(できないこと)を埋めるのはしんどいが、凸(できること)を伸ばすのは、教師も達成感があり、子どもも認められ自信がつき、自信がつくと他の事も頑張れる。難しく考えず、まずはできるところからやってみよう」と話されました。「教師のやる気によって、子どもの成果が変わる」…教師にとっては嬉しくもあり、恐ろしくもある言葉でした。



ただ、外国にルーツのある子どもの課題は多様です。その子たちを支援する手がかりをつかむには、成育環境、母国での学習環境、言語・文化的背景、個々の能力・性格等々、多角的に子どもを見なければなりません。そして、親との連携や多面的な支援が必要です。それぞれの支援と成果を支援者たちが共有することで、どういう課題があるのか支援者もまた学べます。情報の共有、連携はとても大事なのです。

いろんな学校現場の支援を見ていて、「支援者同士の連携が取れている学校は子どもが伸びる」と経験的に感じていましたが、それはホントなのだと改めて確信できました。

最後に、「外国人児童が確かにわかる授業」についての話も聞かせていただきました。教師の授業への工夫一つで子どもを変えることができるとわかり、また、明日からがんばるぞ！そんな勇気をもらえました。

近田先生、明日に繋がるいいお話を聞かせていただき、ありがとうございました。

おおさか子ども多文化センター 活動報告(2)

ピアにほんご「高校生活オリエンテーション」



3月29日(土)、府立今宮工科高校で「高校生活オリエンテーション」が開催されました。この4月から府立高校に入学する外国にルーツを持つ生徒たちを対象に、日本の高校生活を送るうえで知っておきたい情報を提供するため、府教委とピアにほんごが毎年行っているイベントです。今年は新入生とその保護者、教員、通訳など、総勢59名の参加がありました。



「高校生活オリエンテーション」に参加して――

(大阪府立柴島高等学校教諭 千場 由美子)

この春卒業を迎えた中国帰国生が、本校在学中に大阪府立学校在日外国人教育研究会主催の Wai wai! トーク(多文化弁論大会)に出場したご縁で、今回「高校生活オリエンテーション」で先輩の一人として話をする機会を与えていただきました。そんな3人の「先輩」たちは、高校教員のインタビューを受ける形で、日本に来てからの生活を振り返りながら話をしました。新入生にとっては、先輩たちの話やその姿を見ることで自分の3年間の高校生活を想像することができ、新しい学校生活での不安が軽減されたのではないかと思います。そして同時に、話をした先輩たちにとっても、人前で自分のことを話すという良い経験になったと思います。

新入生は、各言語の通訳の方に笑顔で迎えられ、これからの学校生活で府内の高校生とたくさん交流する機会があることを知り、授業料について説明を受け、先輩の話を聞き、学校に提出する「高校生活支援カード」の記入も通訳の方に手伝ってもらうことができました。今回は、本校からの新入生の参加はありませんでしたが、とてもありがたい会だと思いました。



多文化な子ども@大阪のニュース・・・・・・・・・・・・・・・・

「親子で楽しむ！国際交流ひろば」(クレオ大阪南)

1月25日(土)午前10時から午後1時まで、大阪市平野区にあるクレオ大阪南で、2013年度地域連携事業「親子で楽しむ！国際交流ひろば」を開催しました。

企画のきっかけは、地域の民生委員さんにお聞きした「地域との関わりが少ないため、子育ての不安を誰にも相談できずに困っている在日外国人の親御さんが多い」というお話でした。そして、地域で多文化共生に取り組むグループやクレオ大阪英語講座の講師や受講生の皆さんの協力を得て、「親子で楽しむ！国際交流ひろば」を実施することになったのです。



プログラムは、国籍に関係なく親子で楽しく交流できるものを！と考えて、①クッキーづくり ②ママさんブラスの演奏 ③「親子体操」や「絵本のよみかせ」 ④クッキーを食べながらの交流会！に決めました。

当日は、外国にルーツを持つ親子12組24名、日本人親子12組24名の参加者にボランティア35名も加わり、にぎやかなイベントになりました。クッキーづくりでは、一生懸命型抜きに取り組む子どもを見守るお母さん、やさしく手を添えるお父さんの姿が印象的でした。ブラスバンドの演奏では、体をゆらし即興ダンスを披露する親子が会場を盛り上げ、絵本のよみかせでは、父母のひざで気持ちよく寝ている赤ちゃんの姿も見られました。

3時間を過ごす間に、ともにいる時間を楽しむ交流の輪が自然にできていて、日本人・外国人双方の参加者から、「とても楽しかった」「またやってほしい」「もっとふれあいたかった」などの感想をいただきました。食文化や遊び、音楽を通じて楽しく親子で異文化交流できる「親子で楽しむ！国際交流ひろば」、来年度も開催できるようにがんばります！

(大阪市男女いきいき財団 姫野 豊)



帰国渡日児童・生徒適応学級『ワールド教室』（大阪府茨木市）



茨木市では、昭和63年7月より「海外帰国児童・生徒適応学級」「中国帰国児童・生徒適応学級」「ベトナム籍児童・生徒適応学級」を開設し、適応指導を実施してきました。入級児童・生徒の多国籍化に伴い、平成18年度から「帰国渡日児童・生徒適応学級」、平成20年度からは「ワールド教室」と名称を変更しています。教室では生活適応や学習理解を深めるとともに、彼らの貴重な文化体験が生かされるよう配慮しながらアイデンティティの確立を目的として、毎週土曜日に実施してきました。平成21年度からは、毎週金曜日に郡山小学校、土曜日に上中条青少年センターの2ヶ所で開設し、年間をとおしてそれぞれ35回実施しています。どちらの教室へも市内の小中学校から参加することができ、今年度は郡山小学校では22名、上中条青少年センターでは20名の児童・生徒が登録しています。最終週にはどちらの教室の児童・生徒も参加して、遠足を実施しています。今年は国立民族学博物館に総勢20数名で出かけ、楽しい時間を過ごしました。

郡山小学校は、校区の郡山団地を中心に、外国の方の集住地域があり、そこから通う子どもたちなど、外国にルーツを持つ子どもたちが多数在籍しています。中国にルーツをもつ子どもが大部分ですが、インドネシアやバングラデシュ、フィリピンなどからの渡日の子どもたちも在籍しており、毎年転入・編入があつて多国籍の状態です。来日して1年ぐらゐが経過すると、日常生活での日本語会話はできるようになりますが、家に帰ると母語で話している家庭が多く、学習言語の習得がすすまないことが課題となっていることから、郡山小学校をひとつの拠点としてこの「ワールド教室」を実施することになったのです。

郡山小ワールド教室は開設以来、同校にある日本語教室「パンダ教室」と連携しながら、学校の宿題や教科の補充学習、日本語学習などの学習支援を行ってきました。今年度は母語の習得や母国の文化を学ぶ時間を増やし、アイデンティティを高める活動を意識して取り組んでいます。同校で開かれる多文化共生学習の発信の場である「ワールド in 郡山」での発表に向けて、歌や踊りなどを「ワールド教室」で練習し、仲間づくりをすすめたり、母国の文化に誇りをもてるような取組みにしています。市教育委員会から2名の講師を配置し、小学校の教員とも連携しながら取り組んでいます。

また、上中条青少年センターでは、講師1名と市教育委員会の指導主事が教室の運営を行っています。この教室では、子どもだけでなく、保護者の参加も多く、子育てや生活上の不安の相談なども受けており、生活支援の役割も担っています。

本市では、外国にルーツをもつ児童・生徒の在籍数は横ばいの状況ですが、毎年、日本語が著しく困難な子どもが転入・編入してきており、子どもたちが学校生活に適応し、自ら進路を切り拓いていけるよう、本事業「ワールド教室」の充実を図っていきたく考えています。

(茨木市教育委員会 学校教育推進課 田中 義明)

会 場 : 茨木市立上中条青少年センター(土曜日)

茨木市立郡山小学校(金曜日)

問合せ先 : 茨木市教育委員会 学校教育推進課

人権教育・支援教育グループ

TEL 072-620-1683





特別寄稿

母からの手紙を両手で

～どの子ども大事に、学校はそんな場所～

(特活)コリアNGOセンター事務局長／教育コーディネーター

金光敏(キムクワンミン)

編集部より

在日外国人の子どもの教育権に関わる自治体の政策立案や研修、スクールソーシャルワークなどの活動に従事されている金光敏さんに、守口二中の民族学級修了式について投稿していただきました。金さんは毎日新聞のコラム「共に生きる・トブロサルダ・大阪コリアンの目」も執筆されています。「おおさかこども多文化センター設立1周年フォーラム」ではパネルディスカッションでファシリテーターとして話をまとめていただきました。

「去年ここであなたが吹奏楽部の仲間とともに演奏した「アリラン」。お母さんはこの曲が好きではありませんでした。正しい知識のないお母さんには在日を隠しているという心のモヤモヤが詰まった曲でした。それが30数年経って、我が子が友人達と「アリラン」を演奏している。それも堂々と。この瞬間とても好きになりました」「民族学級で学んだこと、感じたことをしっかり思い起こし、在日であることを武器にし生きて行ってください。あなたならできると思います」

在日生徒がわずかの守口市立第二中学校。そこに設けられた民族学級の修了式で紹介された手紙の一部だ。民族学級とは公立学校に通う朝鮮半島など外国にルーツのある子どもたちが、民族文化や家族史などを学ぶ課外学級のこと。第二中学校に設けられたのは60数年前で、一時期途絶えたりもしたが、1980年代末に再開されて、以降現在まで続く。昨年度は朝鮮半島ルーツの生徒6名と、中国ルーツの2名で取り組まれてきた。去る3月6日に行われた修了式は3年生を送り出す会でもあり、毎年大事な学校行事として位置づけられている。手紙は仕事で参加できなかった保護者が娘の巣立ちに寄せたものだが、学べずに在日である自らを卑下して生きてきた過去を、娘の成長を通して今取り戻そうとする心情が綴られていた。読み上げられた母の手紙を華やかな民族衣装に身を包んだ娘が両手で大事そうに受け取った。

民族学級を指導するソンセンニム(先生の意)が修了生たちに言葉を送る。「韓流に沸き、ワンクリックで世界とつながる時代である一方、国へ帰れと心齋橋の韓国領事館前でとどろく声。正月の雑踏の中、それを目撃した小6の娘は私の手をぎゅっと握りしめた。怖かったのだと思う。経済学者のアダム・スミスは、幸せを語るときに必要なのは共感だと語りました。この場を共にしてくれた多くのクラスメートたちは、民族学級の仲間たちの姿を目に焼き付けたことでしょう。そのまた後ろの吹奏楽部員たちは今日のために「アリラン」などの練習に励んでくれました。先生方は君たちの中で民族学級をさぼって帰った生徒がいた日にヤキモキしたことを思い出しながら、式場づくりを心にかけてくれました。これらすべて、あなたたちが外国にルーツのあることへの共感です」



民族講師ではあるが、むしろ在日の先輩として、社会に踏み出そうとする後輩たちへの思いを、書いては何度も消して紡いだ、朝露のような輝きの言葉でソンセンニムは語りかけた。

彼らのために校長、教頭は礼服を着、教務主任の進行は厳かに。教育委員会や校区の小学校からも先生方がかけつけた。すべてはこのわずかの生徒たちのために。守口市のこの小さな営みに大阪の人権教育がめざしている原点がある。

大阪の人権教育は部落解放教育や在日朝鮮人教育、それから障害児教育がそのスタートライン。この実践は、つまり少数の立場に生きる子をいかに元気にするか！そのためには他の多数の子どもたちにこそ豊かな学びや育ちが求められると、大阪の教育運動を担ってき人々は認識し、取り組んできた。一方、急激な世代交代が進む今、若い教員たちの新たな試みにも注目をしたい。「迷ったら子どもの側に立つ」「子どもに最善の利益を」「どの子どもひとりぼっちにしない」「ごんたくれも丸抱え」。それぞれの立場で奮闘する教育に携わる人々をつなげ、そしてつながり、ともに作りあげていく。そこをただ愚直に担っていくのだと私は私の決意を語りたい。



海外からのたよりをお届けします～

メキシコ便り⑭ 「イグアスの滝」

(おおさか子ども多文化センター会員・金野広美)

ブエノスアイレスから夜行バスで18時間、一路、イグアスの滝へ。この夜行バス、なかなかしゃれていて、ワインが飲み放題なのです。夜食に出たパンとワインをいっぱい食べて飲んで、朝目覚めればもう、イグアスの滝への玄関口プエルト・イグアスに着いていました。そこでバスターミナルのすぐそばのホテルをとって、さっそく滝に向かいました。



ここはアルゼンチン、パラグアイ、ブラジルの三国にまたがるイグアス川が大小あわせて約300もの滝となって流れ落ちている場所です。滝幅4キロ、最大落差80メートル、毎秒6万5000トンの水量を誇るそのスケールは世界最大級の大きさです。

まずはアルゼンチン側から「悪魔ののどぶえ」と名づけられている所をめざします。イグアスの滝国立公園の入り口からきれいに整備された遊歩道をジャングルの中を歩くように注意深く進むと、たくさんの色とりどりの蝶に出会いました。ここイグアスは蝶の宝庫で500種類もの蝶が生息しているといわれています。

蝶の乱舞を見ながら、曲がりくねった遊歩道を30分あまり歩くと、突然ゴオーツという大きな音が。「悪魔ののどぶえ」に着きました。ここでは大轟音とともに流れ落ちる滝をほんの2、3メートルの間近で見ることができます。やはり噂通りの迫りに圧倒されました。まるで凶暴なトラが咆哮しながら人間を奈落の底に落とし込んでいくような恐ろしさで大量の水が流れ落ちていきます。滝壺は水煙が立ち上り、全く見えません。しかしその底なし沼のような白い奈落から一筋の美しい虹がのびていました。それはまるでその虹をつたって早くよじ登っておいでといっているようなやさしさに満ちていました。

次の日、ブラジル側からも滝を見てみようと思いましたが、普通、ブラジルに入るにはビザが必要で、ガイドブックには事前にビザを取得しておくようにと書かれています。しかし、私の経験から、陸路での国境越えはまず、事前取得は必要なく、国境のイミグレーションで簡単にとれるので大丈夫だろうと思っていました。特にイグアス観光など、ブラジル滞在がわずか、3、4時間くらいなので、必要ないだろうと確信していました。するとやはり「今日中にアルゼンチンに帰るのだね」と聞かれただけでビザは免除になりました。

こちらブラジル側からは「悪魔ののどぶえ」をはじめとして多くの滝を遠景から見ることができます。歩道橋がイグアス川に張り出すようになってあるので、細かい水しぶきで全身濡れながらも、たくさんの滝に抱擁されたようなとてもいい気分になりました。人はよく両方の景観を比べて「アルゼンチン側の方が迫力があっていいよ。こっちを見ればじゅうぶんだよ」と言いますが、私はやはり部分と全体の関係のように両方見ないとイグアスの滝を見たことにはならないのではないかなという気がしました。

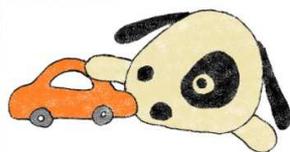


ころちゃんお役立ち情報（6）



3. 多言語翻訳教材、その他資料（14号の続き）

	機関名／教材名／URL	内容／対応言語
6	宇都宮学 HANDS プロジェクト だいじょうぶネット http://www.djb.utsunomiya-u.ac.jp/	○ 外国につながる子どもたちの教育に関するQ&Aコーナー、多言語翻訳資料がダウンロードできる。 ○ 英語、中国語、タイ語、スペイン語、ポルトガル語、フィリピン語
7	TS日本語教室いっしょにあそぼう http://www.hakuoh.ac.jp/nihongo/	○ 小・中学校における日本語教育のための教材 ○ スペイン語、ポルトガル語、タイ語
8	Kids Web.Japan http://web-japan.org/kidsweb/index.html	○ 日本の文化や学校、流行について6言語で紹介している。 ○ 英語、中国語、スペイン語、アラビア語、フランス語、ドイツ語
9	国際デジタル絵本学会「デジタル絵本」 http://www.e-hon.jp/	○ 世界各国の民話を多言語で紹介。 ○ 中国語、韓国・朝鮮語、スペイン語、ドイツ語、フランス語、ノルウェー語、スウェーデン語、イタリア語、インドネシア語、アミ語、英語
10	多文化共生センター兵庫 http://www.tabunka.jp/hyogo/119/index.html	○ 多言語版 救急時情報収集シート 21言語



オコタック（NPO法人おおさか子ども多文化センター）から

★ご寄付ありがとうございました！

2013年度も多くの方々から貴重なご寄付をいただきました。

この紙面を借りて、お礼を申し上げます。

ご寄付をいただいたの方々（敬称略）

伊東和子、内藤路美、桶谷仁美、斎藤裕子、澤田幸子、ピヤダー・シオンラオン、安野勝美、坪内好子
梨木亜紀、橋本義範、村上自子、安田乙世、オコタック事務局

〔総額 357,933 円〕

★「阪急阪神 未来のゆめ・まち基金」助成金をいただきました！

阪急阪神ホールディングス「阪急阪神 未来のゆめ・まち基金」市民団体助成プログラムに応募した結果、助成金をいただくことになりました。魅力あるホームページの制作、絵本をツールにした多文化にふれる活動、外国にルーツをもつ子どもの就労支援、多言語マルチメディア絵本の作成などの活動への助成を申請し、認めていただきました。

個人の方々や阪急阪神ホールディングス様の浄財をいただき、ますます、ご期待に添うべく活動していかなくてはならないと事務局一同、改めて決意をしております。今後とも、ご支援とご協力をお願いします。

『新入生歓迎！高校生交流会』（大阪府立学校在日外国人教育研究会主催）

府立高校に入学した外国にルーツを持つ新入生を、在校生達が歓迎する恒例の催しです。

毎年多くの高校生、教員、ボランティアが参加します。

参加希望の高校生は必ず各高校の担当者を通じて府立外教(Mail : furitsugaikyo@nifty.com)に申し込んでください。



なお教員の付き添いは必要です。

【日 時】 2014年5月24日(土) 午後 (詳細未定)

【場 所】 大阪府立桃谷高等学校 (JR環状線桃谷駅下車、東南へ1キロ)

今年の総会は、特別講演もあります！

おおさかこども多文化センターの2014年度総会を、下記のように開催いたします。

(正会員は総会への参加・議決権、賛助会員は参加権があります。ご案内はまたあらためてお送りします)

今年は例年のような議案審議のみの総会ではなく、オコタック(おおさかこども多文化センター)にふさわしいお話を聞ける機会を設けました。是非、多くの会員のみなさまに出席していただければと願っています。

記

日 時 : 2014年5月31日(土) 10時30分~12時00分

場 所 : ヒューライツ大阪セミナー室(下の地図参照)

おおさかこども多文化センターが入っているビルの同じフロアです

時 程 : 10時30分 総 会

11時00分 ~12時00分

特別講演「府立高校での特別枠導入の経緯と現在」(仮題)

講 師 : 大阪府立門真なみはや高等学校 教員 大倉安央さん



NPO 法人 おおさかこども多文化センター 代表 村上 自子

Osaka Kodomo Tabunka Center (OKoTaC)

〒550-0005 大阪市西区西本町 1-7-7 CE 西本町ビル 8階

Tel / Fax 06-6586-9477

E-mail osakakodomo@gmail.com

URL <http://okotac.org>

郵便振替 【記号・番号】00940-1-272824

(他金融機関からは【店名】〇九九(ゼロノナウ))

【店番】099【預金種目】当座【口座番号】0272824

口座名義『NPO法人 おおさかこども多文化センター』

(フリガナ: トクヒ) オオサカコドモタブンカセンター

